

なな

10月号
vol. 188

特集

Jobなな

ジョブ
なり

第5回 商品をまわすしごと

「ビルの夕焼け」
梶川 広孝
(ビッグアイあーと工房みずのみば)

第5回 商品をまわすしごと

現実の世界の、宝探し、

『宝探し。某海賊王候補者が「おら、ワクワクすぞー!」と飛びつきそうなワードである。漫画やゲーム等のエンタメ世界では定番の設定だが、現実の世界で宝探しをするなんてトレジャーハンターにでもならない限り、そうそうあることではない。いや、そもそもトレジャーハンターなんて仕事が生世離れしているではないか。

しかし、実は意外と身近なところに宝探しを楽しめる場所がある。「今日はどんなものがあるんだろ?」「こんなに安いのか!」と楽しめるお店、リサイクルショップである。リサイクルショップ好きの知人が「掘り

出し物のギターが売っていて、めっちゃくちゃ安い。早よ買わな無くなってしまう。」と少年のように目をキラキラさせていたことを思い出す。結局、買ったかどうかは知らないが、リサイクルショップには様々な種類の商品があるので、掘り出し物や宝物が見つかることも珍しくないのだ。

ということで今回のJOBなりでは、鶴見橋商店街にある「リサイクルショップ・ヨシオカ」のお仕事を取材した。

鶴見橋商店街初のリサイクルショップ

25年前に開業された「リサイクルショップ・ヨシオカ」は、店主の原さん一家3人で経営されている。元々は靴屋さんだっ

たが、フリーマーケットのようにいつに商品を販売していたら、いつの間にか本業になってしまった。

当時は同業者の数が少なく、鶴見橋商店街では初めてできたリサイクルショップなのだそう。主な商品はアクセサリや食器、衣類などで、仕入れのほとんどが委託販売だった。委託販売とは、商品を持ち込むお客さんに、陳列する場所を提供し、商品が売れば場所代と手数料をもらうという方式のことである。中には一人で50個以上の商品を持つてくる人もいたそう。

「結婚式の引き出物とか持つてくる人も多かったね。家に置いてくと場所取って邪魔になるんやろね。ギフトカードとかにした方がいいのに。」と原さんは言う。確かに納得してしまっただ。筆者の結婚式の引き出物はギフトカードにしよう。結婚す



ジョブ
なり

「これが私の仕事也」。
17,000 以上もある日本の仕事のなかから、西成で働く人々の仕事の流儀を学んでみよう。誇りを持って仕事をするってどんなだろう? そんな仕事を学べる時間はけっこう少ないのかも。



「うちの店の近くにもリサイクルショップあったけど潰れてしまった。」と原さんが少し寂しそくに言っていた。「ライバ

コロナ禍の前後

いてるねん」とのこと「実に興味深い」。多様な商品たちとフラットに商売繁盛の神様が置かれていた店内陳列に、リサイクルショップならではの面白さを感じるのは筆者だけではないはずだ。まさに地域密着型の宝探しだ。

ル店が減ったほうが儲かるのでは？」と無粋だが率直な質問を投げると、「リサイクルショップが好きなのは色々なお店を見て掘り出し物を探したい人が多い。自然とお店がたくさんあるエリアにお客さんは集中するから、近くにお店はあった方が良

親切と誠意

最後に、恒例の「この仕事を

い」と返ってきた。そうか、服を買うときに同じようなショップがたくさんあるエリアに行くのと同じ理屈である。



る可能性はオブラートより薄いような気はするが。
すべてがお値打ち価格
さて、ほぼありえない話は横に置いて、店内をじっくり見せてもらう。店内に入るとまず目につくのが、家電製品である。この日売っていたのは、炊飯器に電子レンジ、オーブントース

地域密着型のサービス

「リサイクルショップ・ヨシオカ」では、家電などを購入の際にはお客さんと一緒にキッチンと動作チェックを行う。また、重量のあるものは配達もしてくれる。いずれも多くのお客さんが高齢であることに配慮して始めたサービスだ。
最近、テレビを購入したお客

さんから、店内で一緒に動作チェックをしたのに、配達先の自宅で映らなくなったという連絡が入ったそう。すぐにお客さんの家に赴きテレビを確認した。確かにリモコンの電源ボタンを押しても映らない。店では映っていたはずなのになぜなのか。そろそろ見当がついた読者もいらっしゃるだろう。そう、テレビの電源がコンセントに接続されていなかったのである。「おっちゃん電源抜けてるやん」「ホンマか！ すまん」と漫才のようなやり取りも時々あるようだ。こういった面白エピソードも地域密着型のお店ならではのかもしれない。
他にも何かないかと店内を物色していると、300円均一の鞆のラックに気づいた。丈夫そうな鞆がエコバッグと同じような値段で売っているのだからお得である。骨董品らしきものもところどころに陳列されてい



る。一番目を引いたのが大きな海老のはく製だった。けっこうな迫力である。何の海老なのかは店主の原さんにもわからないが、どこかのお宝鑑定に出せば、もしかしたら値打ちものかもしれない。
その海老の横にえっさんの置物があった。「値段はいくらですか」と尋ねると「それは売り物じゃなくて商売繁盛で置



リサイクルショップ・ヨシオカ
住所：西成区鶴見橋1の5の29
営業時間：10時～19時
定休日：不定休

文責：山村裕太

今、リサイクルショップは厳しい状況かもしれないが、親切と誠意によってできた多くの常連さんがいる。「リサイクルショップ・ヨシオカ」はこれからも西成で宝探しを楽しませてくれるだろう。

ナイスの仲間たち

西成の地域課題や社会問題の解決に挑戦してきた(株)ナイスは、来年で創業 25 周年を迎える。この世代交代の転換期に当社は何をめざすべきだろう。現場で各事業を牽引するリーダーたちに問いかけてみる。

地域経営部門 / リフォーム事業部 VOL.09 川上 正彦さん



1997 年。西成区の様々な住宅課題にチャレンジするため、(株)ナイス創立時から設けられたリフォーム事業部。その時から 25 年間、(株)ナイスを支え続けてきた川上さんに話を聞いた。

Q ナイスとの出会いは？

A (株)ナイス創立の 1 年前、1996 年ですね。この頃、西成地域では「西成地区総合計画」という住民主体のまちづくりが進められていました。僕は、ある設計事務所からの出向で「いきがいが学習センター」「西成陶工」あすなろ」「合資会社西成リフォームセンター」といった西成まちづくり計画の事業立ち上げに関わりました。そして翌年のナイス創立と同時に西成陶工をメインに、リフォーム事業部の前身・西成リフォームセンターの応援に就き、現在に至ります。

Q 思い出に残る仕事は？

A 今まで携わった現場の 8 割方は憶えていますね (笑)

なかでも自分の建築スタイルの基本となった「西成陶工」あすなろ」の仕事。地元の高齢者や障がい者のメンバーと、食肉処理の副産物である「骨粉」と粘土を混合した「津守焼」タイルを手作り制作する工房です。北津守公園の遊歩道に地元の人たちと敷き詰め、施工した現場がとくに印象



に残っています。建築とは図面を描いて造るだけではなく、地域の課題、発注者の想い、施工する職人さんとのコミュニケーションのすべてを考慮して造り上げるものだと思えられた現場でした。もう一つは、初めて福祉建築を意識した仕事。高齢独居のおばあちゃんに解体が

運営に不可欠な要素であると強く感じています。

ナイスは「まちづくり会社」として 25 年を歩んできましたが、忘れてならないのは「企業」であることです。街の発展や課題解決に貢献する会社と云えども、そのような志のある人材を育て、その人材を雇用する受け皿 (企業) を存続させなければ、ただの理想論に終わってしまいます。

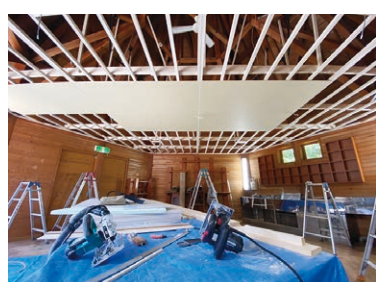
僕はこれまで 20 ～ 30 代の若い世代のスタッフには短期・中期・長期の目標を掲げさせ、20 代には技術を身につけること、30 代には経営の視点を磨くこと、40 代には自信と責任を持って事業運営を担えるようになることを伝えてきました。まあ、その時の言動は確かに厳しかったかも知ね。

ここ数年は自分自身も若い世代への言葉のかけ方や接し方を意識的に変えています。ナイス自体もこれから様々な社会変化の中で守るべきところはしっかりと継承し、変えなければならぬところは勇気を持って改革していく必要があるではと思っています。

取材を終えて

西成地域のまちづくりから誕生したナイス。地域住民の困りごとの窓口であると同時に一企業であるナイス。街にとって大切な事業を継続するうえで忘れてはいけない視点を改めて教わった。今回の川上さんの話をもって「ナイスの仲間たち」のコーナーは終了する。ナイスの理念、先輩たちの思いをしっかりと継承して、私たちのナイスを築いていきたいな。

文責…西田吉志・若松司



リフォーム事業部

●住所：大阪市西成区長橋3-6-33
●TEL：06-6563-1156
●FAX：06-6563-1157



【谷口円】はじめてクロスバイクを購入。ママチャリとは違った、風を切って走る感覚が気持ちよく、「自転車に乗るのがストレス発散」という友人の言葉の意味がちょっとわかりました。



【田岡秀朋】トムラウシの麓で無農薬ブルーベリー狩り。見たことない大粒と驚きの甘さ。しかも格安。その裏は、採る人もなく捨てるよりましと…もったいない。裕峰の里 おすすめです。



【沖田一志】私の「推し」は 365。過去に何度か試した時には機能面、管理画面も使い勝手が悪い印象でした。改良され機能の進化した。最近では使える機能を探ることが面白く感じるほどです。



おかんのため息

- おかん はあ…。「つながり」って大切やん？人のつながり。
- ◆ 息子 なんや、藪から棒に。
- 「大切や、大切や」いうけどな、どうやってつながるかって難しいと思うねん。
- ◆ そやな。
- コミュニケーションの取りづらい障がいがある隆希くんのお母さんが、得意のスイーツの販売でそういうのをしてはんねん。
- ◆ へえ、いつから？
- 去年の秋や言うてたから、わりと最近やな。じつは隆希くんが高校卒業する前から計画はあったんやけど、コロナが流行って延び延びになつたんやって。
- ◆ その隆希くんはいま、いくつぐらい？
- 今年の11月で20歳になんねん。おめでとぅ！！
- ◆ ちょっと話が逸れたな。元に戻そ。スイーツの販売が「つながり」ってどういうこと？
- そのお母さん、スイーツ作るのめっちゃ上手でな、すごくおいしいねん。もうプロ並み。
- ◆ それで？
- で、隆希くんにはコミュニケーションが取りづらい障がいはあるけど、人とのつながりはたくさん作ってもらいたい。で、お母さんはスイーツを作って、隆希くんには販売をしてもらおうと思ったんやって。
- ◆ でも、コミュニケーション取れにくかったら、販売むずかしいやん。
- だから、出身の小学校とか中学校とか、ゆかりのある先生や職員さんを相手にするところか

ら始めてるんやって。で、「ゆ〜とあいでもできたらいいね」って話になってん。

- ◆ え、おかんとその人はどこで知り合ったん？
- そら、仕事でやけど、まあええやん。それよりも、このお母さんがほんまに素敵な人で、誰にも嫌な印象を与えない。いつもニコニコしてはる。なんかな、その親子を見てると、一緒になんかしたいと思うねんね、いつも。
- ◆ で、なんか一緒にしたん？
- 販売の手伝い。というか、チラシ作ってん。私、絵とか描くの好きやねんけども、すごい下手やねん。「こんなしょう」って企画してた時から、上司に「絵が得意な人いるから、頼んだら？」って言われてんけども、それは嫌やった。
- ◆ へえ。
- なんか、自分でしたくて「そこは絶対自分がする」って決めとってん。で、下手くそなチラシやけども作った。見る？
- ◆ うん、見せて、見せて。へえ、良い味、出てるなあ。
- そう？
- ◆ なんか手作り感あっていい。本当に、紙にベタベタ貼ったかんじで、昔の小学校のPTAのチラシみたいや。
- これ見て、楽しみに待ってくれてる人、たくさんいてると思うわ。
- ◆ それは、知らんけど…。

りゅうきくんのスイーツ屋さん

大好評！！ 第2回、ゆ〜とあい職員向けスイーツの販売をします。
(100円前後です)
是非覗きにきて下さい。

場所 ゆ〜とあい 1F 喫茶なび
日時 7月6日(水)
16:30頃～
(30分くらい)



今年の中秋の名月は9月10日でした。とても綺麗なお月さまが観れましたね。さてさて、お月見の9月はみんなで月見だんごをつくりました☆今夜も綺麗な月が見られますように。

たぐの 3くふうたま

昼間

寄り道

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

前回に引き続き、和歌山サイクリングの一場面。大阪府岬町の孝子峠から和歌山県へ入り、海南有田・御坊市を経て日高川町へ向かった。道中で立ち寄ったのは、山の斜面に張り付くミカン畑が壮観な有田郡湯浅町。17世紀初期には92軒もの醤油屋が軒を連ねた、醤油醸造発祥の地だ。行きも帰りも「醤油ソフト」で涼を取り、工場見学も叶った。

ご当地のお勧めの一つは県内唯一の伝統的建築物群保存地区(伝建地区)。まち一体が博物館の様で、これまた壮観。特に江戸時代から昭和の終わりまで営業された大衆浴場の戎湯は、経営者の名前に由来する「甚風呂」と愛称された。今は当時の古民具などを展示する民族資料館になっている。番台やあんま椅子のある脱衣場に足を踏み入れただけで、雰囲気は呑まれ、ついクラッと立ち眩み。当時の家財を見れば、くらしがぶりの変容は誰の目にも明らかだろう。性急な発展に追いつこうとして置き忘れたものを探り当ててみたい。

また長居をしてしまった。旅の続きを急がねば。

(安田拓也)



甚風呂の番台

[安田拓也] 花火大会には莫大なお金がかかることを知った。勿体ないと思いつつ、その経済効果も大きいらしい。見たらきつと「良かったね」となるのは分かっちゃいるが、人込みがダメ。

[福井龍磨] 小林多喜二全集(全7巻)を購入。いま読んでる『沼尻村』は昭和初期の北海道の農村が舞台。凶作に大恐慌、満州で戦争が始まり、若者は兵隊に取られていく。哀しみが骨身に染みる物語。

[西原夏美] ただいま上映中の『ワンピース FILM RED』を観に行きたいんですね。大画面大音量で曲を聴きたいもあるんですけど、ストーリーが特に気になってます。まあ時間ないんですけどね。

[西田吉志] 西成区で開催される16町会対抗の西成区体育レクリエーション大会が、今年は3年ぶりに開催の予定。前回、長橋町会は16位中8位と健闘した。今年はさらに上位を目指すぞ。

葉っぱの吐見

といき

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



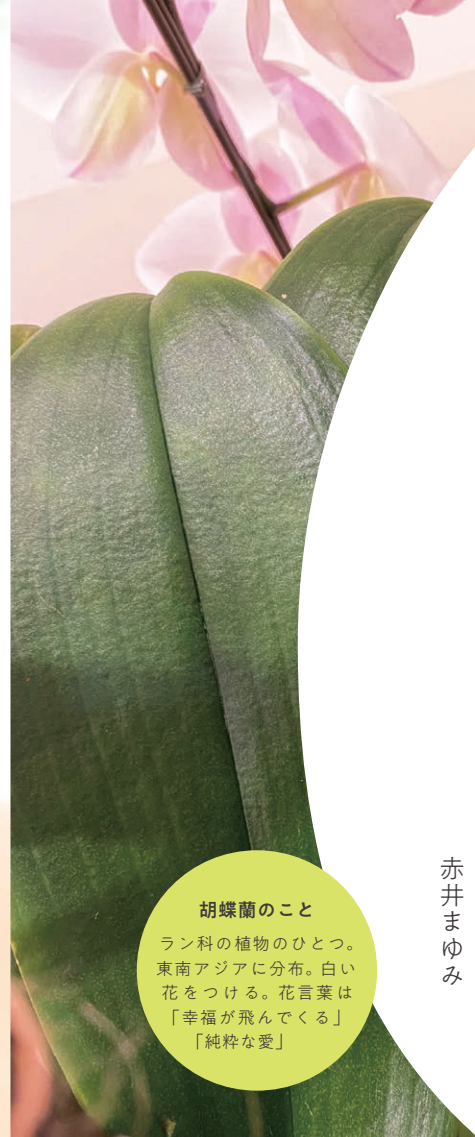
「胡蝶蘭の葉っぱ」の巻

わたしの目標は太ること。
おかしいけどほんとのこと。
努力しないで太るのは黄色信号。
しっかり食べて、ぐっすり眠る。
でも水分の取りすぎには要注意。
からだのむくみは赤色信号。
やさしい日差しはわたしのご飯。
たっぷり栄養は青色信号。
わたしが太ると花は喜ぶ。
喜び感じてほほ笑むわたし。
太るってたいへん。
でもがんばるってカッコいい。

赤井まゆみ

胡蝶蘭のこと

ラン科の植物のひとつ。
東南アジアに分布。白い
花をつける。花言葉は
「幸福が飛んでくる」
「純粋な愛」



い湯がげん



水平社二〇〇年の時空を超えて⑦

戦時下の松田喜一の活動

今回は、戦時下にあつて松田喜一が、経済更生会や日本靴修繕業組合連合会という団体をつくり、並行して部落厚生皇民運動に参画したものの失敗し、全国水平社から除名されるまでの約7年、いや、戦後も続く約20年の苦闘の個人史です。

1937年中戦争に突入する

と、日本は完全な戦時体制のもと統制経済になりました。軍靴以外の靴は作れず、国交断絶のため原皮も入ってきません。やむなく西浜の職人たちは靴製造から靴修繕に転じます。その数大阪で3千人、全国では1万2千人。しかし革資材も統制団体による登録制になります。靴以外の皮革産業も操業不能に陥ると、元々蓄えのない部落民は一気に窮乏し、戦時下でも格差は広がります。政府は事情に精通し戦争に協力的な融和団体を探しますが、大阪は融和団体

が弱小で水平運動が強く、都合のよい窓口団体はありませんでした。
松田喜一は葛藤のすえ決断します。
1938年、靴修繕職人と働き口のない住民を組織して経済更生会を結成しました。その組織は全国に広がり、42年には日本靴修繕業組合連合会の結成に至ります。松田は瞬く間に万を超える靴修繕職人と失業部落民を掌握しました。軍部や政府は、松田を危険分子と警戒し検挙もしますが、その手腕に頼らざるをえません。これが部落厚生皇民運動(1940年)に参画した松田の活動です。「部落民を見殺しにして何が総動員か」と戦時下で部落問題解決を迫る松田に、他の道は見つかりませんでした。それは、戦争協力である一方で、「極限の解放運動」でもあったのです。無念だったでしょうが、自分が憲兵に引つ張られれば命の保証もなく、

置き去りになった部落大衆は軍に弱腰な融和団体の支配下に落ちます。もちろん、侵略という戦争の本質を見抜けなかったのは痛恨の極みでした。しかし、「選択不能の道」を駆け抜けた水平運動と松田喜一を全否定することはできません。
既号で書いたように、35年には出城や津守に住む皮革労働者らによって水平社西成支部が結成されますが、津守には既に融和団体がありました。両者は、西成区経済更生会に糾合されるかのように、「水(平運動)融(和運動)」一体で戦時下を生きたのです。これが後の「同促協」の下敷きとなります。
さて、西浜を焼き尽くした大空襲で浪速区分は全焼し西成区分は半焼しました。松田は、空襲の2日後には軍の被服工廠から入手した革屑を修繕業者に回します。敗戦後は露店商禁止反対の大立回りを演じ、さらに「ジブシー部落」と呼ばれた出城のバラックから生き抜くためのゲリラ戦を指揮、文化温泉、住宅闘争へと導き、今日の西成の運動の礎を築きます。「ジブシー」は差別呼称ですが、松田は出城の流浪の被差別民をそう表現しました。



右側に和服姿で座っているのが松田喜一。対して、火鉢の前の髭をたくわえた人物が松本治一郎、その左が朝田善之助。

“もはや戦後ではない”1955年、日本の復興期に部落解放運動が蘇ります。この年によく西成で「戦争が終わった」とボクは思います。部落解放運動の再生こそが、戦争に代わる民主主義の発露だったと思うからです。

水平社二〇〇年の時空を超えて、

いま。戦時下の松田喜一の行動は評価が分かれています。松田と水平社は戦争に屈服し協力もしました。しかし、敢えてそうすることで部落の生活を守ろうとし、敗戦後なお10年も戦争と向き合い続けた史実を、脳裏に刻んでおこうと思います。今回の舞台写真は、戦時下の水平運動を議論する福岡、松本治一郎宅での和服姿の松田喜一です。

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

インターネットと差別についての学習会に参加した。ネット上では、平然と差別的な言辞が書き込まれ、個人に対する誹謗中傷が散乱している。他方には、差別書き込みを心で痛めている人がたくさんいる。こうした実態は言論の自由の実現と言えるのか？確かに憲法で保障される言論の自由は非常に大事だが、何を言っても書いても自由だというのはおかしい。

そもそも日本には人権侵害を規制する法律や被害者を救済する法律が無い。さらに世間の人びとのモラルの低下が感じられる昨今にあつては、ネット上の差別的な書き込みや動画などの削除を求めるので精いっぱい。現状に対する国や政治家の無作為に疑問を感じる。早々に無法状態のネット社会に手を打つことを求める。

【山村裕太】久しぶりにギターを触ってみました。Fコードを問題なく弾けてホッとしましたが、Bコードで指が悲鳴をあげました。誰やあんな指が泣くようなコード考えたん。

【若松司】コーネリアス「変わる消える (feat. mei ehara)」。心を微かに震わすのは、曲なのか、詞なのか。声なのか、ダンスなのか、景色なのか。



地域の縁を心でつなぐ

心の時間

来事に人間の理解を越えた「不思議」な働きを感じ取る洞察が含まれています。また「袖振り合うも多生の縁」という諺も、道ですれ違うほどの些細な出会いに潜む前世からの深い縁という「不思議」を説いています。

人生には自らの判断が必要とされますが「不思議」の力に生かされてもいます。そのことを大事にする
と物事の根本を見つめる眼が深まります。私たちの
出会いは単なる偶然ではなく「不思議」な縁があった
のです。友人を失った悲しみは尽きませんが「私に大
切なことを教えてくれる為に生まれてきた仏様」と
思うようにします。そして仏様を大切にすることで、
この悲しみを乗り越えてゆきます。

松向寺 通法

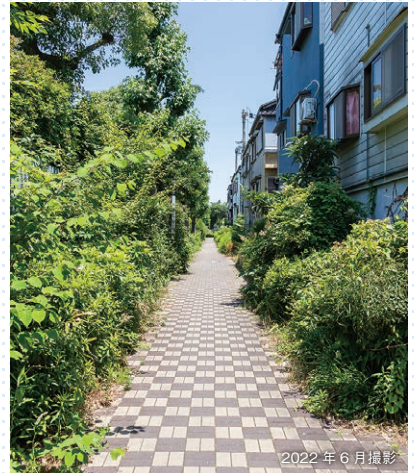
親友が急死しました。「いつ
でも」「いつまでも」共に年を重ねて行くことが「当たり前」と
思っていました。その思いは
一瞬で消えました。北原白秋
の詩に「薔薇ノ木ニ 薔薇ノ花
サク。ナニゴトノ不思議ナケレ
ド。」とあります。仏教用語の
「不思議」は「人間の理解を越え
ている」という意味ですから、
「当たり前」に思える日常の出

ココドコ

ココはドコ？
わたしはぐへレ？
編集部が厳選した
「にしなり」100景！
大公開！

緑いっぱいの爽やかな道。のんびり散歩するのにちょうど
良さそうですね。ココがドコかわかった人は、ゆ〜とあいの
受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼント
いたします(先着10名様限り)。回答期限は10月末日、ふるっ
てご回答ください！

【先月号の答え】 旭2丁目7-17の松之宮保育所でした！保育園はかわい
いイラストの宝庫です。



2022年6月撮影

ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニ
ティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設
です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩
み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 10月号(vol.188)

発行日:2022年10月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

住所:大阪市西成区長橋 3-6-33

電話:06-6563-1150

E-mail:info@nice.ne.jp

url:https://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司

編集: 沖田一志、田岡秀朋、西田吉志、西
原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太(あ
いうえお順)

イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

(株)ナイス
ホームページ

